

「Yurikago Nature Center」 ～ 移転計画について① ～

H24.11.26 Yurikago

どこまでも広がる大空の下、悠久の大地を駆け巡り、
森のささやきと動物たちの歌声に耳を澄まし、
生命の営みを全身で感じながら、心豊かに、逞しく育ててほしい。

YNCで遊ぶ子どもたちを見ていると、こうした私たちの思いや願いが、想像以上に早く、確かに実現されるであろうことを実感いたします。子どもたちの目の輝きは数値などのデータで表すことができませんが、それは心に生じているであろう変化の現れであり、心情、意欲、態度といった「生きる力」を育むすべての過程を今正に経験していることを想像させます。

「幼児にとって望ましい環境…」という、これまで私たち大人が捉えてきた概念がいとも簡単に崩されていくのを目の当たりにします。スケールの大きな環境にあつという間に慣れ、使いこなしてしまう適応能力、身の回りのあらゆる物を遊びに変えてしまうセンス、、、これまで園庭での遊びからわかっていたつもりでも、YNCではその発見の多さに言葉を失います。

間違いなく大きく成長し、羽ばたいてくれるであろうことを楽しみにしながら、移転に向けた計画を煮詰めているところです。以下、現在までに決定したことをお伝え致します。

●移転に向けたスケジュール

1. 園舎建築

平成25年4月～平成25年12月

(但し、現園舎から移設する建具などについては、平成26年3月の移転時に行います)

2. 移転作業

平成26年3月～4月の春休み期間

(移設可能な備品などは、園舎が完成予定の25年12月以降、順次移設します)

3. 移転開園

平成26年4月

●園舎構成(予定)

・保育室 10室(年少4室、年中3室、年長3室)

移転の26年度は、(年少4、年中2、年長2)を予定しています。

なお、これに伴って、25年度のナーサリークラス(H24年12月22日募集開始)は、(18名×4クラス)で開講します。

・延長保育室 兼 ナーサリークラス 1室

・絵本の部屋 兼 コミュニティルーム 1室

・ホール 1室

・職員室 1室

・キッチン(調理室) 1室

・トイレ・倉庫他

●園舎の特徴

1. 総平屋(1階)建築

園地の広さ、豊かな自然環境というメリットを最大限に活かし、幼児にとって理想的な環境である平屋園舎にいたします。具体的には以下の通りです。

・園児の安全、園舎の安全性、避難の迅速性

東日本大震災は今回の建築計画に大きな影響を与えました。震災時、幼稚園の1階にいた子どもたちは、すぐに園庭に避難することができましたが、2階にいた子どもたちは、ホールの中央に集まり、伏せて揺れが収まるのを待つしかありませんでした。

強固な園舎であることはもちろん、それ以上に、ドアを開けたらすぐに園庭に飛び出していけることの大切さを痛感いたしました。園児の安全、園舎の安全性、避難の迅速性を最優先し、平屋建築が理想であると判断致しました。

・大地を感じる

幼児の心身の発達という観点から、生活環境はできるだけ1階に近い方がよいことが様々な研究でわかってきました。ドアを開ければすぐに園庭で遊ぶことができるという機能的側面もありますが、加えて、土、砂、草、花、水、生き物など、様々な自然物と身近に関わることができるということはとても大切なことです。現園舎でも、テラス前の花壇に棲む生き物や植物をじっと眺めていたり、関わったりする子をよく見かけます。幼児にとって、こうした「民家の縁側」のような空間は、屋内と屋外をつなぐ大切な「気づきの場」となります。(現在、2階の年長さんは、テラスにプランターを置くことでこれを補っています。)

・空間を広く

園舎は1階建てですが、一番高い天井部分は一般的な二階の天井と同じ高さになります。ゆったりとした大空間で、大空や遠方の山脈を仰ぎながら過ごせるよう計画しています。

2. 木を中心とした建築

近年、文部科学省が木造園舎・校舎を推奨しているように、木が幼児・児童の発達によい影響を与えることがこれまでの実績でわかってきました。「木工の家病気知らず」という言葉があるように、木は健康に良い影響を与えます。特に、心の安定、ストレスの軽減、集中力の増加などがあげられます。また、伝統建築にあるように、木は鉄筋コンクリートや鉄骨よりも強く耐久性もあります。

3. 内装

・手づくり & 手間暇をかける

園舎の構造体については安全の面から専門業者に任せる必要がありますが、内装の一部については、親子で楽しみながらじっくりと作っていくことが可能です。壁塗りなど、滅多に経験できない園舎づくりは貴重な思い出になるでしょう。